

校内研修等の充実のための支援訪問

「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けた授業改善



埼玉県マスコット
コバトン さいたまっち

〇〇〇立〇〇〇学校

令和〇年〇月〇〇日

西部教育事務所 〇〇〇〇

「主体的・対話的で深い学び」の実現に 向けた授業改善は、なぜ必要なの？



埼玉県マスコット
コバトン さいたまっち

これからの世の中



今後の社会において求められる能力

「答えのない課題」に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見いだすことができるようにする。

- 困難に立ち向かいそれを乗り越える力の育成
- 新たな課題に対し、知識を応用し、自ら考え解決に向け行動するための思考力・判断力・表現力を持つ等の人材が必要となってくる。

人間の強み



埼玉県マスコット
コバトン さいたまっち

新学習指導要領について

新しい時代に必要となる資質・能力の育成

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く
知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力
を育む「**社会に開かれた教育課程**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

- 小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など
- 様々な資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す。
- 学習内容の削減は行わない。**

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

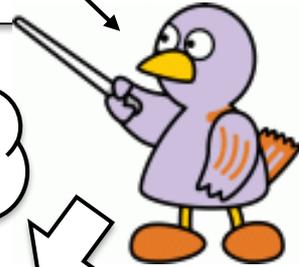
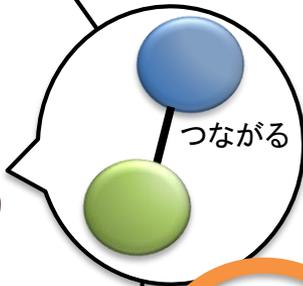
- 生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成
- 知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

人間の学び(理解の深浅)の原則

新たな学習内容等



友だちの同意により
一層強固になる



深 浅



子供が自分で考
えて言葉にして
初めて既存の知
識とつながる



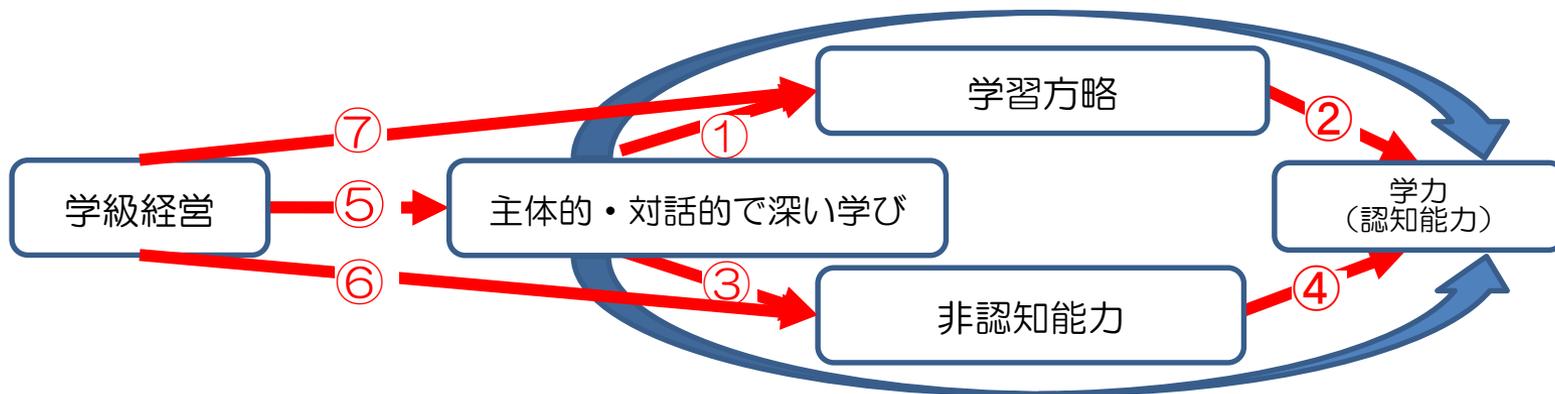
児童生徒がもつ既存の知識等

分かりやすい教
師からの説明で
子供は分かった
つもりになる

主体的、対話的で深い学びの推進

埼玉県学力・学習状況調査データ活用事業
→全国唯一のデータを、民間の力を活用して分析

○「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながる



【①～④】主体的・対話的で深い学びは、子供たちの「非認知能力」や「学習方略」の向上を通じて、学力を向上させる。

【⑤～⑦】「学級経営」が、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、子供たちの「非認知能力」「学習方略」の向上に重要

→「学級経営」がよいほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすい。
「学級経営」がよいほど、「非認知能力」「学習方略」を伸ばす。

「主体的・対話的で深い学び」のポイント



埼玉県マスコット
コバトン さいたまっち

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が**実現**できているかという視点。

実現に向けて

- ① 学習の目標（**めあて**）を示したあとに、子供自ら解決の方法を考えさせる場面（**見通し**）を設ける。
- ② 子供自身が課題解決にあたり、自分が何を知っているのか（知らないのか）、どのような解決方法があるのか**自覚**させる。
- ③ ワークシートや資料、模型などの具体物を使って、子供の様々な**考えを引き出す**工夫をする。
- ④ 子供に理由を付けて**考えを発表させたり、ノートに書かせたりする**。
- ⑤ **まとめ**の場面において、自らの学習を**振り返り**、次につながる新たな問いや疑問、調べたいことを書かせる。

主体的な学びの例



問題発見



解決の見通しを持たせる



試行錯誤ができる
教具の用意



自力解決が
厳しい児童
への支援

授業改善：「めあて」と「見通し」

- ◆「めあて」…**何を学ぶか**が意識される(内容・目標)
(注)教科によって言い方が異なる。
- ◆「見通し」…**どのように学ぼうか**(学ぶ過程)
自分はどのように進めていくか(主体性)

イメージ！！



埼玉県マスコット
コバトン さいたまっち

まとめと振り返りについて

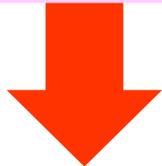
まとめ(全体)

≠

振り返り(個)

- ・何を学んだのか整理する

教師と子供が



- ・児童生徒がわかる言葉で
- ・キーワードを入れて

まとめる。

- ・向上したことや学び方のよさを確認・実感する。

子供が



メタ認知

- ・わかったことやわからなかったことを
- ・考えたことや感じたことを

振り返る。



新しい問題

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が**実現**できているかという視点。

実現に向けて

- ① 子供が一方通行の発言をするのではなく、つながりのある**双方向の対話**になるようにする。
- ② 対話等を通じて、**多様な情報や考えを収集したり、自分にはない異なる考えに気付かせたりする。**
- ③ 子供同士が互いの考えを**比較検討**しながら、他の児童の考えを取り入れて解決させるようにする。
- ④ 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、**本を通して本の作者などとの対話**をさせるようにする。

対話的な学びの例

他者に伝える場面



他者の考えを理解する場面



他者の考えに質問する場面



同じ考えの子供同士でよりよい説明を考える場面



他者の考えを説明する場面





グループタイム

- 全員が説明する
- 学び合う
 - ・疑問に答える
 - ・友達の「考え」を使って、新しい「考え」を見つける

単に「活動あって学びなし」にならないよう配慮する。

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が**実現**できているかという視点。

実現に向けて

- ① **問題解決的な学習**や**探究的な学習**を取り入れる。
- ② 児童生徒が**多様な答えや考え方を導くことができる課題**を設定する。
- ③ 子供の発言に対し、**教師は切り返したり、問い直しをしたり**して、子供によく考えさせる。
- ④ **思考を深める板書**（授業の全体像と思考の流れが分かる、振り返りができるなど）を行う。
- ⑤ **自分の考えを文章等でまとめる**活動（描写・要約・説明・記録・報告等）を適切に取り入れ、考えが変容したことを確認する。
- ⑥ **学びの「深まり」の鍵となるのは、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」**である。

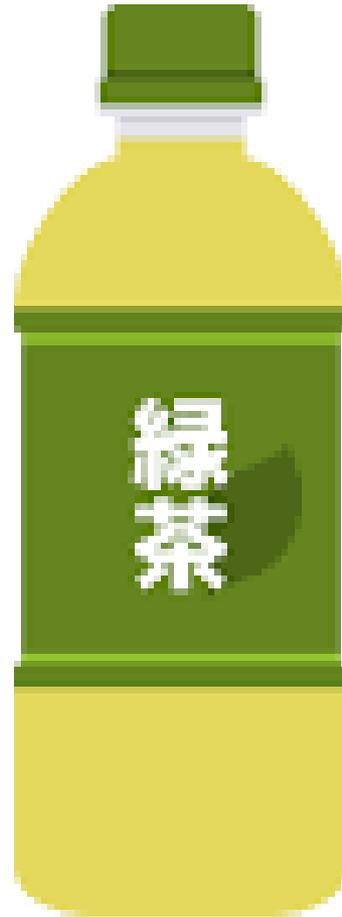
見方・考え方について

理科の見方・考え方
「このお茶の性質はどんな性質かな。」

数学的な見方・考え方
「このお茶のかさはどのくらいなのかな。」

造形的な見方・考え方
「このロゴは、お茶だから、緑色にしたのかな」

社会的な見方・考え方
「このお茶の産地はどこかな。」



同じ事象でも、教科によって「見方・考え方」が違う

深い学びの例

6/11 P53

ひ算 $315 - 194$ (位をそろえる)

3けた-3けたのひ算のしかたを考えよう

式 $315 - 194$

自分の考え

百の位から下げる

一の位から計算する

765 - 413

693 - 365

②式 $300 - 200 = 100$

答え いたい100円くらい

振り返りの充実

練り上げの見える板書

〈今日の学び〉
わたしは、五角形に対角線を1本引いて三角形と四角形に分けて考えましたが、友だちの考えを聞いて、どんな多角形でも三角形に分ければ内角の和が求められるので、いつでもわかるやり方だと気付きました。今日は、内角の和の新しい発見ができてうれしかったです。算数は、こういうきまりがあるのでおもしろいです！

主体的な学び
対話的な学び
深い学び・知識・理解
学びの実感
算数への関心・意欲

〈今日の学び〉

わたしは、五角形に対角線を1本引いて、三角形と四角形に分けて考えましたが、友だちの考えを聞いて、どんな多角形でも三角形に分ければ内角の和が求められるので、いつでもわかるやり方だと気付きました。

今日は、内角の和の新しい発見ができてうれしかったです。算数は、こういうきまりがあるのでおもしろいです。

深い学びの姿例（理科）

☆モンシロチョウの飼育を通して、成長の過程を理解する。



○多様性と共通性という見方を働かせることで他の昆虫にも目を向ける。



○バッタやカブトムシなどの昆虫と成長の過程を比較しながら、昆虫によって成長過程が違うという概念が形成される。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に 向けた授業改善の推進

- ア **これまで地道に取り組み蓄積されてきた実践を否定し、全く異なる指導方法を導入しなければならないと捉える必要はない**
- イ 児童生徒に目指す**資質・能力を育むために**「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、**授業改善を進めるもの**
- ウ 各教科等において**通常行われている学習活動**（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など）の**質を向上**させることを主眼とするもの

- エ 1回1回の授業ですべての学びが実現されるものではなく、**単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、実現を図っていくもの**(見通し振り返る場面、対話する場面、児童生徒が考える場面、教員が教える場面)
- オ **深い学びの鍵として「見方・考え方」**を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。
- カ **基礎的・基本的な知識及び技能の取得に課題がある場合にはその確実な習得を図ることを重視すること**

主体的・対話的で深い学びの実現 6則

埼玉県教育委員会

埼玉の子供たちを
「人材」として
輝かせるために！



主体的・対話的で深い学びの実現 6則

毎日の授業では、子供たちが「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力・人間性」など、これからの時代に求められる資質・能力を身に付けられるよう、教員が**変容(伸び)**を見取ることが大切です。
そのためには、**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善**が有効です。…あなたの授業を見直してみませんか？

変容によって…

- ・ 機械的に記憶するよりも意義や意味を考えることで、より一層、知識や技能の定着を図ることができる。→**知識・技能の習得**
- ・ 自分で課題を見付け、自ら学び、考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題解決する資質や能力が向上する。→**思考力・判断力・表現力等の育成**
- ・ 主体性に加えて、チームワークや優しさなど、人間性が向上する。→**学びに向かう力・人間性の涵養**

1. 【主体的・対話的で深い学びって何？】

- ・ **主体的な学び**: 学習活動を見渡し、振り返り、課題を解決していこうとすること
- ・ **対話的な学び**: 学び合い等、他者と協働すること等によって、多様な見方・考え方を学ぶこと
- ・ **深い学び**: 見方・考え方を働かせて、自分自身の次の課題を見付けること

2. 【何のために、主体的・対話的で深い学びの実現を？】

「何ができるようになるか」という子供たちに必要な**資質・能力**を育成するため、そのためには、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という**学びの過程**を組み立てていく**授業改善**が重要である。

- ・ 目指すのは、「何ができるようになるか」(変容すること)である。
- ・ 一斉指導やグループ学習等の手法や技術等の改善、型の実践の必要性を考慮することではない。
- ・ 子供たちに**資質・能力**を育成するために、学習内容(「何を学ぶか」)を明確にし、目の前にいる子供たちに、**どんな学びの過程**(「どのように学ぶか」)がふさわしいのかを見極めることが大切である。



3. 【「どのように学ぶか」をいま一度見直す】

子供たちが学習内容を深く理解し、**資質・能力**を身に付けたか、**変容**を見取るために、特に、「どのように学ぶか」という**学びの過程**に着目して、その質を高めること。

- ・ 資質・能力の育成に向けて、子供たち一人一人の興味や関心、発達や学習の課題等を踏まえ、それぞれの個性に応じた学びを引き出していく上で、特に、**主体的・対話的で深い学び**の視点を踏まえた「どのように学ぶか」という**学びの過程**について着目し、授業の工夫・改善に取り組むことが重要である。

4. 【変容が見取れる授業改善を】

「何ができるようになるか」、教員は子供たちの**変容(伸び)**を見取ること。

- ・ 教員は授業改善を図ることで、子供たち一人一人が**資質・能力**を身に付けて、「何ができるようになるか」という**変容**を子供たち自らが実感し、教員もその**伸び**を見取れるようにすることが大切である。

5. 【信頼関係に基づく学級づくりを】

主体的・対話的で深い学びを目指した授業と、**信頼関係に基づく学級づくり**を「車の両輪」として進めていくこと。

- ・ 学級は、子供たちが日々の生活を共にする基礎的な集団であり、学習活動や学校生活の基盤となることから、担任をはじめとした全教員と子供たちの**信頼関係**及び子供たち相互の**好ましい人間関係**づくりが重要である。
- ・ 子供たち一人一人の発達を踏まえた上で、学級での人間関係を豊かにし、コミュニケーション能力が高まることで、各教科等の授業において**主体的・対話的で深い学びの実現**につながり、さらに学級づくりが充実する。

6. 【学び続ける教員集団であるために】

授業改善を目指して、教員同士で、深く考え、学びを通じて**変容**すること。

- ・ 教員が子供たちに求められる**資質・能力**を育むために、必要な学びの在り方を絶え間なく考え、**教員同士**で学び合うことで、様々な観点から授業の工夫・改善について議論を重ね、**主体的・対話的で深い学びの実現**を目指す。



教員同士で現状を分析し、まずは**できることから始める**ことが重要です。「これでよい」という正答は1つではありません。常に子供たちのために**授業を改善**していくことが大切です。

(平成29年3月)

ご清聴ありがとうございました



埼玉県マスコット コバトン